

# 第 26 回 全国建築塗装技能競技大会

## 実 施 要 項

日 時：令和元年 10 月 16 日～17 日  
場 所：西日本総合展示場 新館 A 展示場

主 催 一般社団法人 日本塗装工業会

一般社団法人日本塗装工業会会歌

のびよわれらの日塗装

作詞 伊藤喜三郎  
作曲 中村八大

一

青い空だよ 日本晴れた  
真赤な屋根に 白い壁  
山の緑も 映えている  
塗装で明るい 環境づくり  
のびよ われらの 日塗装

二

暑さ寒さも なんのその  
蔭の力の 功労者  
今日も元気で 若人が  
塗装で明るい 町づくり  
のびよ われらの 日塗装

三

高いビルにも 家庭の中も  
建設機械や 工場も  
世界のなかまと 手をつなぎ  
かかせぬ塗装で 国づくり  
のびよ われらの 日塗装  
のびよ われらの 日塗装

あ おい そら だよ につぼんば れー だ  
まっ かな やね ーに しろい か べ  
や まの みど りも はえていー る  
とそ うで あか るいー かんきょうづ くり のびー  
よ われら の につ とそ う

# 目 次

1. 開催にあたって（会長挨拶）	1
2. 第26回全国建築塗装技能競技大会にあたって（実行委員長挨拶）	2
3. 大会役員	3
4. 全国委員	4
5. 審査員	5
6. 大会実施要領	6
7. 出場選手日程表	8
8. 審査員・補佐員日程表	9
9. 実技課題	10
10. 調色板及び試し塗り板課題図	18
11. 1人当たりのスペース	20
12. 支給塗料一覧表	21
13. 支給品一覧表	22
14. 褒章内訳一覧表	23
15. 会場・宿舎案内図	24
16. 競技会場平面図	25
17. 出場選手	26
18. 出場選手の心得	28

# 1. 開催にあたって

一般社団法人 日本塗装工業会  
会 長 北 原 正

この度、ここ西日本総合展示場において、第26回全国建築塗装技能競技大会を開催にあたり、国土交通省、厚生労働省のご指導をはじめ、関連諸団体・業界そして報道機関のご支援、ご協力を頂き、とりわけ開催ブロックであります九州ブロック、福岡県ならびに北九州市ご当局の深いご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。また九州ブロックにおかれましては、実行委員長を中心として1年以上に及ぶ開催の諸準備に多大なるご尽力を賜りそのご苦勞に深く感謝を申し上げます。

本大会は昭和43年東京で第1回大会が開催されて以来、今日まで脈々と歴史を刻んで参りましたがこの間、新材料・新工法の登場、技能の向上、社会情勢の変化（特に環境問題等）に伴い、競技課題・使用材料も時のニーズに合わせて変更もして参りました。

今日本は、少子高齢化、人口減少の時代に突入しております。建設業界、塗装業界も担い手の確保育成を最優先に進めていかなければなりません。そのためには、処遇改善を第一に、若手の技能者が働きやすい環境を整えていくことが重要であると考えております。国交省が進める、建設技能者の処遇改善の取り組みとしての建設キャリアアップシステムが今年度より本格運用となり、当会では、関係団体と連携し、技能者のレベルや経験が見える化し、客観的なレベル分けを4段階にする技能者の能力評価基準策定に着手しております。建築塗装に従事する本大会の選手の皆様をはじめ、塗装技能者の処遇改善に努めてまいります。また、働き方改革についても建設業界、塗装業界として考えていかなければなりません。現状の塗装業界、とりわけ現場で従事する技能者についてはまだまだ対応が難しい部分があります。塗装は最終工程であり、いろいろな部分のしわ寄せの影響を受け、まともに休日を取れないことが多いのですが、この解消には適切な工期設定が何より必要であり、元請、発注者には理解を求めていきたいと思っております。

近年、塗装の重要性が求められる状況の中で、塗装技能の向上及び継承は当会の最も重要な課題であり、本大会の意義は極めて大きいものがあります。お蔭様で大会も回を追って充実して参りました。これも技能委員会のみならず本会会員の皆様の塗装技術・技能に対するたゆまぬ研究と研鑽の成果の賜と考えます。

出場選手の皆様は、数多くの技能士の中から選ばれた卓越した技能を有し、模範となる方々でおります。大会の雰囲気や臆することなく、日頃の実力がいかんなく発揮されることを希望致します。

選手の皆様のご健闘を心からお祈りしてご挨拶と致します。

## 2. 第26回全国建築塗装技能競技大会にあたって

実行委員長 池田 幹 友

本日ここに、新元号「令和」となり初めてとなります、全国建築塗装技能競技大会が、関係各位の多大なるご協力のもと、全国各地から予選大会を勝ち抜かれた大勢の選手、役員の皆様方をお迎えし、盛大に開催できますことは、この上ない喜びであり心から感謝申し上げます。

全国建築塗装技能競技大会も今回で26回を数え、福岡県での開催については実に31年ぶり3回目となります。思い返せば平成の幕開けも福岡県大会でしたので、時代の節目で開催できますことを大変光栄に思うとともに、現在の塗装技術の振興を果たした意義は非常に深いものがあったと思います。永年にわたる関係者のたゆまざるご尽力のおかげと心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、私ども塗装業界を取り巻く状況は、少子高齢化による後継者不足や工事量の減少など依然として改善されず、塗装業者の多くは引き続き厳しい経営環境にあり、課題も多く残されておりますが、安全安心で持続可能な地域社会を構築してゆくために、果たすべき役割はますます大きくなるものと考えております。

このような中、4月から働き方改革関連法が施行され、さらに建設キャリアアップシステムの本格運用、改正入管法の施行による新たな外国人受入れなど、塗装業界にとっても、大きな時代の節目となる施策や制度が動き出しているところです。

「令和」という新しい時代が幕を開け、日塗装もその使命を再確認しつつ、塗装業界が着実に発展し、将来に亘ってその社会的役割を果たしていくため、本大会が、新工法、新塗料など最先端の塗装技術や技能向上により、今後の業界を引っ張っていく大会となるよう期待しております。

選手の皆さんには、ふるさとの期待と応援を大きな力に変え、悔いの残らないよう最高のパフォーマンスを発揮していただきたいと思っております。

また、全国からお越しの皆様には、郷土を代表して戦う選手たちに熱いエールを送っていただくとともに、新元号の「令和」にゆかりのある、福岡の豊かな自然や歴史・文化、新鮮な山海の幸、本県ならではの心のこもったおもてなしを堪能いただければ幸いに存じます。

私たちは、参加する全ての方々が、光り輝く大会となるよう思いを込め、一丸となって準備を進めてまいりました。

最後になりましたが、ご共催いただく北九州市、ご協賛いただく各団体様、ご後援いただく関係官公庁、各団体及び企業様には、心より御礼を申し上げますとともに、本大会が成功するようにご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

### 3. 大会役員

大会会長	北原 正				
大会副会長	永田 好一	若宮 昇平	加藤 憲利	安島 壮	
九州ブロック会長	木下 顕				
九州ブロック副会長	副島 正則	宮崎 香			
実行委員長	池田 幹友				
実行副委員長	久我 誠	鬼丸 隆	成清 勉	石橋 誠也	
総務委員会	◎石橋 誠也	○古賀 祥照	○信川 康弘		
選手管理委員会	◎吉元 健一	○岡 義博	○松尾 裕吾		
安全・経営委員会	◎岡 一紀 ◎川口 大介	○佐伯 博司 ○井上 龍雄	○永井 勇 ○古賀 俊文		
課題・会場・広報委員会	◎長谷川 陽 ◎福田 勲	○藤崎 清久 ○諏訪下 司	○麻生 昭秀 ○岩谷 光芳		
開催地補佐員	徳永 宏二	岡 義博	新原 茂	近藤 厚	
開催地実行委員	志水 雅弘 神渡 太郎	檜 学 大石 真也	大石 浩人	永山 一松	

注) ◎印 部会長  
○印 副部会長

## 4. 全 国 委 員

### [ 常 任 理 事 ]

河野 敬幸      宮木 章吉      小林 俊明      松室 利幸      西下 武則

### [ ブロック理事 ]

中村 達也      松本 俊一      松尾 康司      小川善一郎      木村 一美  
清水 康二      早瀬 利典      石原 寛      二宮 知央      木下 顕

### [ 会 員 理 事 ]

稲葉 了大      相馬 真二      田山 順一      古畑 守      宮下 尊之  
山崎 久康      佐藤 正道      吉田 勝二      久田 五海      小寺 徹也  
鈴木 豊      杉本 俊文      岩崎 浩      尾崎 武行      宮崎 香  
副島 正則

### [ 支 部 長 ]

照井 則夫      松川多喜夫      飛鳥 淳      片桐 久      草野 昭夫  
鈴木 博巳      小泉 幹夫      木暮 実      奥野 眞一      渡辺 潮  
加藤 正      林 孝      祖泉 信宏      岡本 保男      森 有光  
中川 欣二      中島誠津男      杉本 定幸      渡邊 廣之      岩田 元志  
今西 功至      栗原 佳宏      古志野 功      黒崎 政彦      井上 良一  
檜垣 康彦      菅原 清司      中橋 孝彦      池田 昭大      川村 幸雄  
池田 幹友      長家 秀典      出端 隆治      伊藤 英治      佐藤 佳郁  
朽木 充嗣      市坪 孝志      比嘉 章博

### [ 技 能 委 員 ]

田口 真澄      大矢 謙二      石塚 俊伸      石川 匡洋      松田 勝己      小川 裕治

## 5. 審 査 員

審査員長	長谷川 秀 樹 (神奈川・技能委員長)
特別審査員	*国土交通省および厚生労働省より特別審査員を各1名依頼する予定
審 査 員	
	松 田 正 幸 (北海道・技能副委員長)
	佐々木 謙 一 (岩 手・技能副委員長)
	齊 藤 佳 昭 (茨 城・技能副委員長)
	宮 下 昭 造 (石 川・技能委員)
	大 南 拓 哉 (愛 知・技能副委員長)
	荒 木 俊 成 (京 都・技能副委員長)
	宮 平 和 浩 (鳥 取・技能副委員長)
	影 浦 達 也 (愛 媛・技能副委員長)
	落 合 三 郎 (熊 本・技能副委員長)
計	10名 (審査員長含む)

### 〈審査員資格〉

- (1) 一般社団法人日本塗装工業会会員であること。
- (2) 1級建築塗装技能士または職業訓練指導員免許を取得している者。
- (3) 塗装実務経験20年以上の者。
- (4) 上記(2)、(3)のいずれかに該当し、心身とも健康な者で技能委員とする。
- (5) 自社より出場選手のある者は審査員となることは出来ない。
- (6) 審査員は大会役員・全国委員を兼務できない。
- (7) 特別審査員は国土交通省および厚生労働省の担当官にそれぞれをお願いする。

## 6. 大会実施要領

### 1. 目的

大会に参加する選手個々の人格、識見の高揚を目指し、より高度な塗装技能を競い、技能士としての自覚と能力の向上を図ることを目的とする。

2. 主催 一般社団法人 日本塗装工業会

3. 共催 北九州市

4. 協賛 北九州塗装協同組合、公益財団法人 北九州観光コンベンション協会

5. 後援 (予定)

国土交通省、厚生労働省、福岡県、福岡市、中央職業能力開発協会、  
(一社) 日本塗料工業会、日本塗料商業組合、日本建築仕上材工業会、  
福岡銀行、西日本シティ銀行、北九州銀行、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、  
西日本新聞社、NHK北九州放送局、RKB毎日放送、九州朝日放送、  
TNCテレビ西日本、FBS福岡放送

6. 期 日 令和元年 10 月 16 日 (水) ～ 17 日 (木)

7. 競技会場 西日本総合展示場 新館 A 展示場

所在地：福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目 8 - 1 電話：093-541-5931

8. 参加資格

(一社) 日本塗装工業会 第 26 回全国建築塗装技能競技大会 ブロック大会の成績上位者 (ブロック割当数は別に定める) 46 名。(26 ～ 27 頁)

[ブロック大会参加資格 (抜粋)]

1) 『建築塗装技能』のブロック大会出場資格者は 1 級または 2 級の建築塗装技能検定の取得者とする。なお、大会出場経験者の参加出場も認める。ただし、以下に該当する大臣賞を受賞した者は出場不可とする。

- ・第 22 回大会までの大会で、大賞の部門で国土交通大臣賞を受賞した選手。
- ・第 23 回大会以降の大会で、内閣総理大臣賞、国土交通大臣賞、厚生労働大臣賞を受賞した選手。

2) 出場選手は本会会員またはその従業員であること。

7. 参加費 無料 (選手および観覧者)

8. 競技内容

所定の競技課題 (10 ～ 19 頁) を所定の使用材料 (21 頁)、所定の使用工具 (22 頁) を用いて作成し、その作業動作および完成度について競技する。

## 9. 服 装

作業衣上・下、作業帽、作業袋は支給するので競技時間中は必ず着用する。

(大会終了後進呈) また、履物は運動靴を持参すること。

## 10. 使用塗料

必要塗料の一定分量を一組にして各自に支給する。(21 頁参照)

## 11. 使用工具

各自必要な工具を持参してよいが電動機器類等は禁止する。ただし、競技課題および支給品一覧表(22 頁)を熟読し必要なものは各自持参する。

## 12. 副資材

副資材等については支給品一覧表を参照の上、必要なものは各自持参すること。

## 13. 審査

国土交通省および厚生労働省に依頼する特別審査員各 1 名(予定)ならびに本会が委嘱する審査員計 12 名により審査する。

審査方法は別に定める採点基準により採点する。

## 14. 褒賞

内閣総理大臣賞、国土交通大臣賞、厚生労働大臣賞の他各種賞状および副賞を授与する。

(23 頁参照)

## 15. その他

①選手の旅費は往復支給する。

②選手の宿泊費(2泊:15日、16日)は無料とする。

ちなみに、17日の宿泊については、希望があれば本会にて下記ホテルの手配可能。ただし、宿泊費については、自己負担。

選手宿泊先:小倉ベイホテル第一

住所:〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野 2-17-31

TEL:093-551-8282

③選手の食事支給予定

10月15日(火) 夕食

10月16日(水) 朝食・昼食・夕食

10月17日(木) 朝食・昼食・夕食(夕食は宿泊希望者のみ)

10月18日(金) 朝食(宿泊希望者)

## 7. 出場選手 日程表

1. 期 日 令和元年 10 月 16 日（水）～ 17 日（木）

2. 会 場 西日本総合展示場 新館 A 展示場

所在地：福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目 8 - 1 電話：093-541-5931

月 日	時 間	予 定
10 / 15 （火）	14：00～15：00 15：00～15：30 15：30～17：00 17：00～17：30 18：00～	会場集合、受付（時間厳守） 着替え・記念撮影 競技課題の説明・質疑応答 徒歩にてホテルへ移動し、チェックイン レセプション（宿泊ホテル内）
10 / 16 （水）  第 1 日	7：20 7：30～8：00 8：00～8：10 8：15～8：45 8：45～9：00 9：00～12：00 12：00～13：00 13：00～17：30 17：30～18：00 18：30～	ホテルロビー集合 ホテル出発、徒歩にて競技会場へ移動 作業支度 開会式 ラジオ体操・作業支度 競技 休憩（昼食） 競技（後片付けを含む） 徒歩にてホテルへ移動 別会場に移動し、夕食
10 / 17 （木）  第 2 日	7：50 8：00～8：30 8：30～9：00 9：00～11：30 11：30～11：50 (11：50～12：50) 11：50～14：50 15：00～16：15 16：15～  (16：15～17：00)	ホテルロビー集合 ホテル出発、徒歩にて競技会場へ移動 ラジオ体操・作業支度 競技（作業終了時に枠・床面の清掃含む） 後片付け（私物・機具等） 審査の為、会場内立入禁止 昼食・作品見学・荷造り等 表彰式 表彰式終了後、解散 *宿泊手配の必要な選手は ホテル宿泊・翌朝チェックアウト 作品前での記念撮影等（各選手任意） ※競技大会で作成した作品の持帰りは不可。

## 8. 審査員・補佐員 日程表

1. 期 日 令和元年10月16日(水)～17日(木)

2. 会 場 西日本総合展示場 新館 A展示場

所在地：福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目8-1 電話：093-541-5931

月 日	時 間	予 定
10 / 15 (火)	13:50 14:00～15:30 15:30～17:00 17:00～ 18:30～	各自昼食後、小倉駅(新幹線改札口)集合 審査員・補佐員会議 課題説明 徒歩にて宿泊ホテルへ移動 ホテルにて夕食会
10 / 16 (水)  第1日	7:20 7:20～7:40 8:15～8:45 9:00～12:00 12:00～13:00 13:00～17:30 17:30～18:00 18:00～ 19:30～	ホテルロビー集合 徒歩にて会場へ移動 開会式 競技審査 休憩(昼食) 競技審査 1日目審査集計取りまとめ 徒歩にて宿泊ホテルへ移動 ホテルにて夕食会
10 / 17 (木)  第2日	7:30 7:30～7:50 8:30～9:00 9:00～12:50 12:50～ 15:00～16:15 16:15～	ホテルロビー集合 徒歩にて会場へ移動 会場集合、A課題・B課題(単層弾性)の完成審査 競技審査 休憩(昼食) 表彰式 解散 or ホテルへ移動

## 9. 実 技 課 題

### 第 26 回全国建築塗装技能競技大会

〔注意事項〕

- ・（ ）内の区画線寸法は、およその寸法を示している。
- ・課題（B）（C）の図面の区画線寸法は、「左」から「右」へ、「下」から「上」へを原則として考える。

(A) 課題 つや有合成樹脂エマルジョンペイント刷毛塗り仕上げ

	工 程	仕 程 様
1	養 生	枠材及び床を養生しなさい。(床ラインは残すように)
2	施工段階線①	課題図で示す素地のまま残す部分を計測しなさい。 マスキングテープ使用を可とします。
3	素地ごしらえ	付着物の除去・清掃、水性パテ厚付淡グレーを使用して穴埋めをしなさい。また、素地のまま残す部分のビスも穴埋めすること。(金ヘラ使用可)
4	地 付 け 1 回 目	課題図で示す施工段階線①より上を、水性パテ K 05 - 75 B (近似)を金コテで1回目の地付けをしなさい。
5	施工段階線②	課題図で示す地付け1回目のまま残す部分を計測しなさい。 マスキングテープ使用を可とします。
6	研 磨	施工段階線②より上の部分を研磨しなさい。
7	地 付 け 2 回 目	課題図で示す施工段階線②より上を、水性パテ 白を金コテで2回目の地付けをしなさい。
8	施工段階線③	課題図で示す地付け2回目のまま残す部分を計測し、鉛筆で線を引きなさい。 マスキングテープ使用を可とします。
9	研 磨	施工段階線③より上の部分を研磨しなさい。
10	区 画 線	課題図にしたがって枠材の「内ノリ」より寸法を計測し、区画線を引きなさい。
11	仕 上 げ	調色 (GP) したA色・B色を課題図で示す区画線内に、刷毛を使って2回塗り仕上げしなさい。(2回目仕上げ塗りは調色板を提出した後、行うこと。)鋭角部のみふでの使用可。(直角部はふでの使用不可)
12	片付け清掃	枠材及び床養生撤去後、床清掃をしなさい。

- \* 施工段階線③は鉛筆線を残すこと。
- \* 区画線の鉛筆線は塗りつぶすこと。
- \* 調色板の塗装は、刷毛で2回塗りとする。(A・B色)
- \* 支給材料以外は使用しない。
- \* A課題調色板の塗装は、第1日目の16時までに仕上げて提出すること。また、提出の際は、手を上げて審査員、補佐員の指示に従って行うものとする。(P 18 参照)
- \* GP：つや有合成樹脂エマルジョンペイントの略称
- \* 競技第1日目終了までに、A課題は全て仕上げておくこと (完成させておくこと)。

(B) (C) (C') 課題 下地処理仕様

	工 程	仕 様
1	養 生	枠材及び床養生をなささい。(床ラインは残すように)
2	計 測	①'、①" を計測しなさい。マスキングテープ使用を可とします。
3	素地ごしらえ 及び目地処理	付着物の除去・清掃、水性パテ厚付淡グレーを使用してビス穴埋めをなささい。水性パテ厚付け淡グレーで①'、①" の区分け通りV部を充填処理しなさい(金ヘラ使用可)。
4	ジョイントテープ 貼り及び 出隅コーナー貼り	乾燥状態を確認して支給したジョイントテープを貼りなさい(入隅部はジョイントテープを貼らない)。出隅はコーナーテープ(フリーコーナーテープ〔糊付])を①"の区分け通り貼りなさい。
5	施工段階線①	下地処理仕様図で示す素地のまま残す部分を計測しなさい。
6	ジョイントテープ ジョイント部・ 出隅コーナー処理	ジョイントテープ面は、水性パテ厚付け淡グレーを金コテで処理しなさい。 出隅部は、水性パテ厚付け淡グレーを出隅用コテで処理しなさい。(入隅部は処理しなくてもよい)
7	施工段階線②	下地処理仕様図で示すジョイント処理部と出隅処理部を残す部分を計測しなさい。マスキングテープの使用を可とします。
8	研 磨	施工段階線②より上(ジョイント処理部及び出隅処理部)の研磨をなささい(残す部分については研磨しないこと)。
9	地 付 け 1 回 目	水性パテ K 05 - 75 B (近似) を金コテで、Bの面、出隅・入隅部を出隅・入隅用コテを用いて1回地付けしなさい。 B面は全面地付け、C'面は200mm程度で段差のないよう止めなさい。 自由課題C面の平面の地付けは任意でよい。
10	施工段階線③	下地処理仕様図で示す地付けのまま残す部分を計測しなさい。 マスキングテープの使用を可とします。
11	研 磨	B面は、施工段階線③より上の部分を研磨しなさい。 C面とC'面の出隅部は研磨せず残しなさい(残す部分については研磨しないこと)。
12	地 付 け 2 回 目	下地処理仕様図で示す区画線内全面に、水性パテ白を金コテで仕上げ塗りしなさい。C面の出隅・入隅部は出隅・入隅用コテで仕上げ塗りしなさい。自由課題C面の平面の地付けは任意でよい。 研磨範囲は、各課題の工程で確認すること。

- \* ①'、①" の下部処理の際には下から50mmのところにてテープ養生すること。
- \* 支給材料以外は使用しない。
- \* 施工段階線④は、③より上に100mm計測し、それより上を2日目に水性パテ白で仕上げる。
- \* 入隅部はパテ処理済。
- \* 競技第1日目15時まで、下地処理作業は全て仕上げておくこと(完成させておくこと)。

(B) 左右 課題 木目調仕上げ

下地処理仕様に続いて

	工 程	仕 程 様
1	区画線①	課題図で示す地付け2回目のまま残す部分及び中央の防水形外装薄塗材E（単層弾性）ローラー塗り施工面と、木目(1)木目(2)の境界線と入隅側を図面寸法通り計測しなさい。
2	養生	区画線①の中央の防水形外装薄塗材E（単層弾性）ローラー塗り施工面と入隅部分を養生しなさい。
3	研磨	区画線①の左右の木目施工範囲を研磨しなさい。
4	下塗り	水性カチオンシーラーを塗りなさい。（ローラー1回塗り）
5	中塗り	AEPバインダーを指定するC色（K 17 - 40 D）に調色し、試し塗り後ローラーで1回塗りをしなさい。周囲はマスキングテープおよびマスキング養生を可とします（中塗りは、調色板を提出した後行うこと）。
6	施工段階線①、⑤	課題図で示すAEPバインダーのまま残す部分を計測しなさい。マスキングテープの使用を可とします。
7	調合	意匠仕上材（上塗り塗料）1kgに、中塗りに使用したAEPを用意したポリカップを用いて45ml添加して、均一に混ざるように充分に攪拌しなさい。
8	仕上げ塗り	調合した意匠仕上材を、試し塗り後支給された用具を用いて塗布しなさい。左の木目課題は、木目模様を3列に描きなさい。うづくりは図のように右から3つ、2つを交互に描きなさい。右の木目模様は、中央にうづくり1つ、残りは柾目を図のように描きなさい。
9	片付け清掃	枠材および床養生撤去後、床清掃をしなさい。

- \* 調色板の塗装は、ローラーで1回塗りとする。（P 18参照） 第1日目の16時までに提出する。また、提出の際は、手を上げて審査員、補佐員の指示に従って行うものとする。
- \* 左右の木目模様描きは全面地付2回とバインダー塗りをした後、上から30mm、下から100mmを残し、施工段階線①より上に図面通りに描きなさい。  
マスキングテープ及びマスキング養生を可とします。
- \* 支給された木目描き用具（加工は認めない）以外は使用してはならない。
- \* 競技第1日目終了までに、工程5中塗りまでの作業は終了し、工程6以降は競技第2日目に作業する。

(B) 中央 課題 防水形外装薄塗材 E (単層弾性) ローラー塗り仕上げ

下地処理仕様に続いて

	工 程	仕 程 様
1	施工段階線④	施工段階線④を計測しなさい。
2	養 生	施工段階線④を養生しなさい。 Bの面中央部分左右の木目塗装との区画線の内側に 18 mm マスキングテープを貼りなさい。 枠材上部内側を防水形外装薄塗材 E (単層弾性) の厚みを考慮して養生しなさい。
3	素地ごしらえ	付着物の除去・清掃をしなさい (研磨はしないこと)。
4	モールディング の取付	モールディング「日塗装ロゴマーク」を、図面寸法位置に外部用アクリルコークを用いて貼り付けしなさい。 固着確認後、周囲をマスキングテープおよびマスキングテープで養生しなさい。
5	単層弾性塗り	支給された防水形外装薄塗材 E (単層弾性) を、試し塗り後多孔質ローラーを用いて仕上なさい。
6	片付け清掃	枠材・区画線①と施工段階線④の養生撤去後、床清掃しなさい。

- \* 支給された試し塗り用板を用いて、多孔質ローラーを慣らすこと。
- \* 支給材料以外は使用しない。
- \* モールディング「日塗装ロゴマーク」取付け用の外部用アクリルコークは所定の場所まで取りに行くこと。
- \* 競技第 1 日目終了までに、単層弾性は全て仕上げておくこと (完成させておくこと)。

(C) 課題 自由仕上げ (自由課題)

※指定テーマ 《 商業施設の壁の一部を創作する 》

	工 程	仕 様
1	区画線②	区画線②を計測しなさい。
2	養生	枠材および床と区画線②の入隅・出隅の残す部分を養生しなさい。
3	素地ごしらえ	付着物の除去・清掃をしなさい。
4	自由工程	<p>区画線② (入隅部分) から区画線② (出隅部分) までの課題全体を自由に使い、建築塗装用材料 (溶剤を含む材料・吹付工法・スプレー缶などは不可。また、霧吹きの使用については、水を使用する場合に限り可とする。) を用いて完成予想図のテーマに適合する作品を制作しなさい。</p> <p>制作するための着色・造形・工程・工法制作工具は限定しないが、既に完成している装具材、製品の貼付け、取付けは不可とします。但し、モールディングの使用は可とする。モールディングの素材は、木製または各種発砲ウレタン、発泡スチロールに限定します。また、持込時は下地塗装 (微弾性フィラー・樹脂セメントなど、木製の場合は、使用予定の仕上げ材に対する下塗り材までの施工、下塗り材の色については単色の1工程のみとする) までのものとし、仕上げについては競技大会にて仕上げる可とする。</p> <p>取付はアクリルコーク・両面テープの併用とします (釘止め、ビス止めは不可)。</p> <p>モールディングの出巾 (部材の厚み) は、50 mm以内とします。</p>
5	片付け清掃	枠材及び床養生撤去後、床清掃をしなさい。

- \* 着色用の原色、アクリルコーク、両面テープは各自持ち込むこと。
- \* 有機溶剤の持込み及び使用は不可。
- \* モールディングを持ち込む場合は、事前チェックをし、チェックの結果、規定外のものについては使用不可とする。

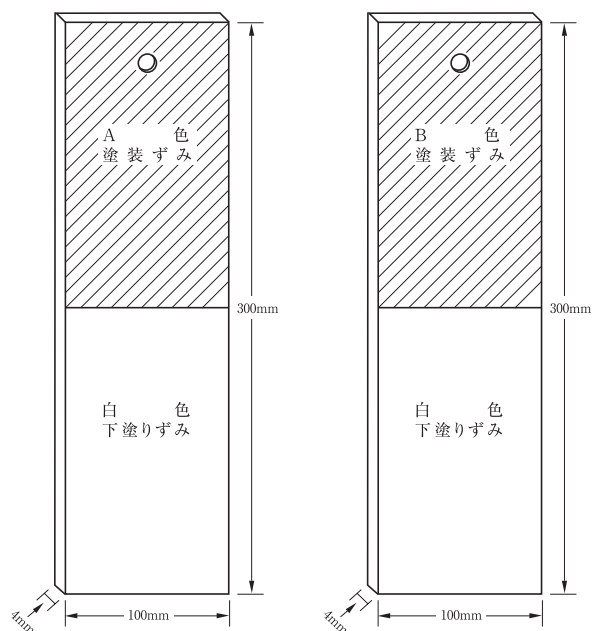
## 10. 調色板課題図

### 第26回全国建築塗装技能競技大会

(A) 課題 つや有り合成樹脂エマルション  
ペイント・刷毛塗り仕上げ

A色 [K 35 - 70 H] 刷毛塗り2回仕上げ

B色 [K 22 - 80 F] 刷毛塗り2回仕上げ



注1) 第一日目の16時までに提出すること。

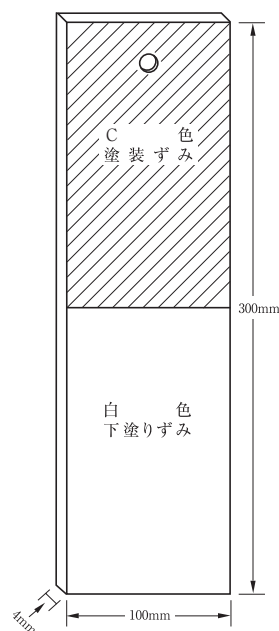
注2) (A) 課題を仕上げる前に提出すること。

(B) 左右 課題 木目調仕上げ

AEP (バインダー)

C色 [K 17 - 40 D]

ローラー1回塗り仕上げ



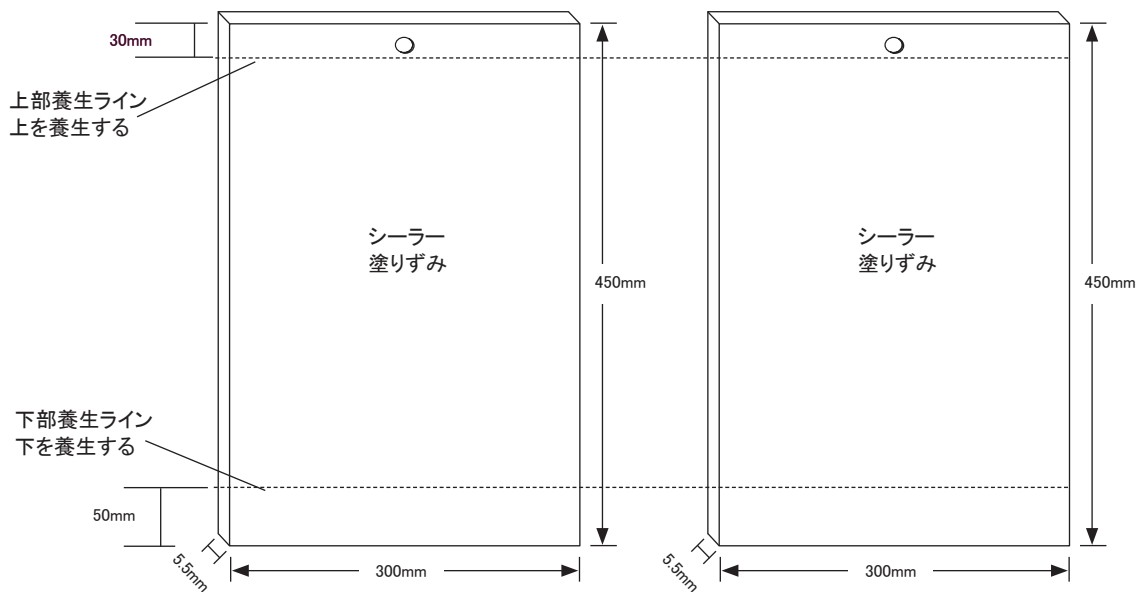
注1) 第一日目の16時までに提出すること。

注2) (B) 左右課題のバインダーを塗る前に提出すること。

## 10. 試し塗り板課題図

### 第26回全国建築塗装技能競技大会

#### (B) 課題 試し塗り板 (2枚)

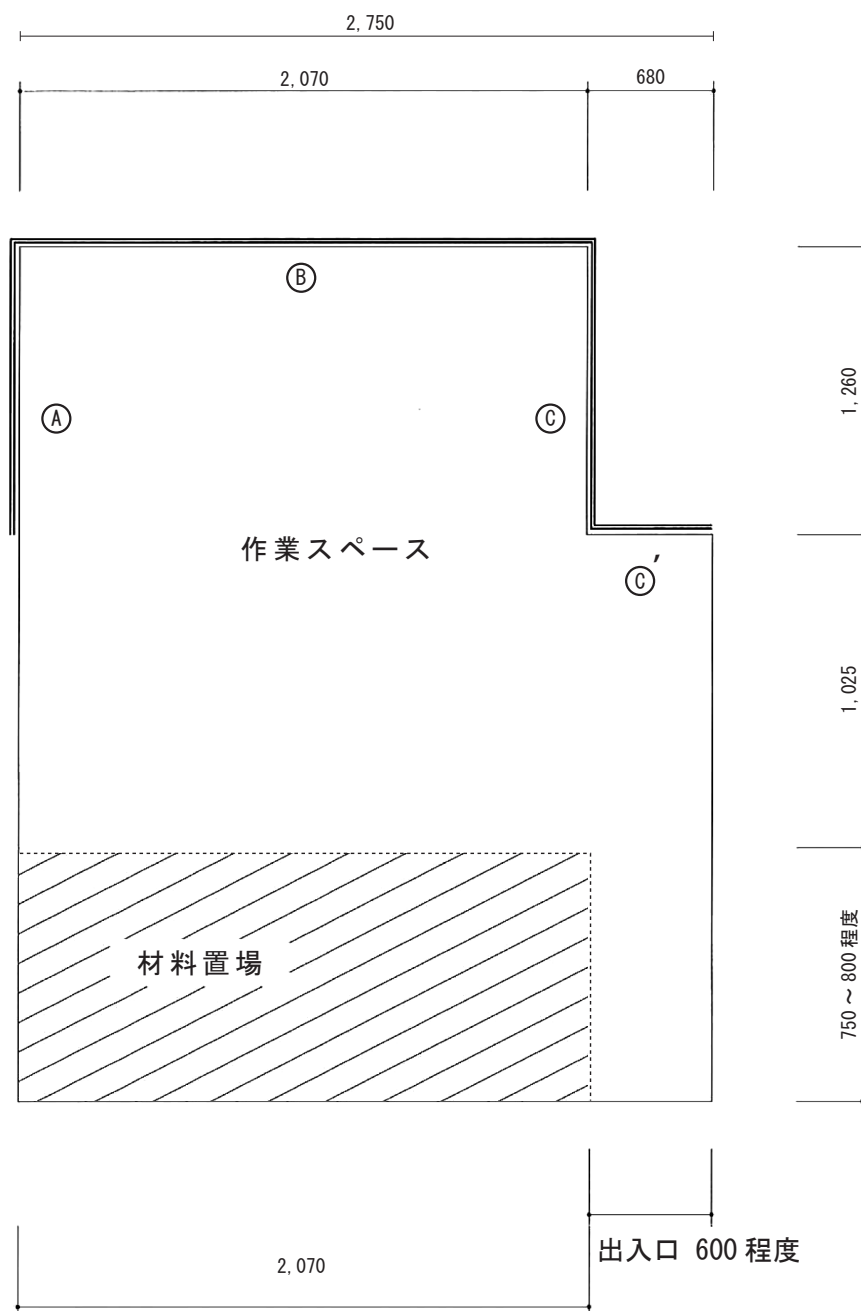


注1) 1枚は(B)左右課題木目作業用で、バインダーを塗る前と、木目描き作業前に  
試し塗り試し描きをすること。

注2) もう1枚は(B)中央課題防水型外装薄塗材Eの単層弾性を、多孔質ローラーで  
塗る前に試し塗りをすること。

注3) 材質：シナベニヤ

## 11. 1人当たりのスペース



選手1人分 作業スペース図

- \* 材料置場は 2,070 × 750 ~ 800 程度です。
- \* 工具箱・コンテナサイズは「幅 500 程度 × 奥行 400 程度 × 高さ 300 程度」で 2 個まで持ち込み可。  
また材料置き場には全支給材料と持参工具（コンテナを含む）のすべてを納めることとする。

## 12. 支給塗料一覧表

下記の塗料が大会当日支給されるので、競技者は必ず確認して下さい。不足のものがあれば、競技開始前に申し出るようにして下さい。下記の支給材料で作業すること。(追加支給はしません。)

＊『建築塗装技能競技大会』実技課題（A・B・C・C'）の支給塗料の一覧表

塗料名	色名	形状・入り目	数量
水性パテ	白	4 kg	1
〃	K 05 - 75 B (近似)	3 kg	1
水性パテ 厚付け	淡グレー	1 kg	1
つや有り合成樹脂エマルジョンペイント	白	1 リットル入り缶	1
〃	黄・紺・赤錆・黒	1/4 リットル入り缶	各1
水性カチオンシーラー（木目用）	白	0.5 kg	1
アクリル樹脂水性エマルジョンペイント(AEP) (中塗り)	調色用 白	0.5 kg	1
〃	〃 黄	1 kg	1
〃	〃 赤錆	0.5 kg	1
〃	〃 黒	0.5 kg	1
意匠仕上材（上塗り）		1 kg	1
防水形外装薄塗材 E	K 15 - 65 X (近似)	2 kg	1

＊（C）自由課題用の着色塗料と骨材、原材料に限り各自持ち込むこと（ただし、スプレー式ペイント、溶剤の持ち込みは不可）

## 13. 支給品一覧表

下記のもので大会当日支給されますので、競技者は必ず確認して下さい。  
不足のものがあつたら、競技開始前に係員に申し出ること。

＊『建築塗装技能競技大会』実技課題支給品一覧表 (寸法単位mm)

品名	形状・寸法	数量	備考
課題用パネル	せつこうボード A、B、C、C'	4面	
発砲ウレタンモールディング「日塗装ロゴマーク」(塗装済み) ※上記貼付け用外部用アクリルコークは会場に用意してある。		1	
調色板	しな合板製 100×300×4	3枚	
試し塗り用板(シーラー塗装済)	300×450程度 ペニヤ板	2	
ローラーブラシハンドル	ローラーハンドル(ミドルローラー 巾175 中毛用)	2本	
ローラーブラシ	ミドルローラー 巾175 中毛	3本	
多孔質ローラー及びハンドル	多孔質ローラー(標準目) 7インチ	1	単層弾性用
	コーナーローラー(標準目)	1	
木目グレイニングローラー	専用ローラー	1	木目調 仕上げ用
バケツおよびネット、内容器	ローラーバケツ SXセット 210×170	3組	
バケツおよびネット、内容器	ローラーバケツM ネット付 210×235	1	
調色用ポリカップ	100cc 目盛り付き	1	
調色用カップ	ロングポット 500cc×2 1000cc×1	3	
日塗工色見本帳付属比色マスク		1	調色用
ひしゃく(玉しゃくし)	スープレードル 438-7295	1	
さげ缶		2缶	
さげ缶カートリッジ		4	
かくはん棒	ミキシングバー 225×3・かくはん棒 315×1	4本	
手定板	415×335 LL	1	
ジョイントテープ	50×1800ミリ	1	
フリーコーナーテープ (出隅用)	2000、エココーナーラインEP-35T	1本	
マスキングテープ	巾18×3巻 ボード用18×1巻 枠養生用30×1巻	5本	
養生テープ	ガムテープ巾25	2ヶ	
研磨紙	P180×1枚、P240×2枚	3枚	
養生紙	テープ付きマスキナー 550	3ヶ	
ウエス	白	適量	
定規	ステンレス製 線引き用 L1000・L600	各1本	
コンパス	155ミリ	1	
水(作業用)	2L	1	
休憩時の荷物カバー用シート		1	
簡易防塵マスク		1ヶ	
作業服	上着・ズボン	1着	持ち帰り
作業帽		1ヶ	持ち帰り
ゼッケン布	胸・背つなぎ	1枚	

- ＊ はけ、ふで、角コテ、出隅用コテ、入隅用コテ、金ヘラ、木ヘラ、プラスチックヘラ、こしわけ用具、作業袋(腰袋)はさみ、掃除などで必要な用具は各自持参すること。会場では刷毛等については洗うことはできないので各自持ち帰り用の袋を用意して下さい。  
上記の養生道具で不足と思われるものの持参は可。  
角コテについて、大きさは240以上とし、丸コテ、剣先コテは不可とする。  
(C)自由課題に限り工具類は各自持ち込み可。  
ただし、定規は支給されたものを使用すること。  
簡易防塵マスクについては、ペーパー掛けの際、必ず着用すること。  
作業用踏み台については、各自背丈に合ったものを持参しても良い。

## 14. 第26回全国建築塗装技能競技大会 褒賞内訳一覧表

内閣総理大臣賞
国土交通大臣賞
厚生労働大臣賞
国土交通省 土地・建設産業局長賞
厚生労働省 人材開発統括官賞
福岡県知事賞
北九州市長賞
中央職業能力開発協会会長賞
一般社団法人 日本塗料工業会会長賞
日本塗料商業組合理事長賞
日本建築仕上材工業会会長賞
一般社団法人 日本塗装工業会会長賞
課題別部門賞（7部門） 一般社団法人 日本塗装工業会会長賞
特別賞：福岡銀行、西日本シティ銀行、北九州銀行、毎日新聞社、NHK北九州放送局、 （予定） FBS福岡放送、福岡県中小企業団体中央会

### 〔 部 門 賞 〕

課題名
自由仕上げ（自由課題） 審査員評価 部門
自由仕上げ（自由課題） 一般来場者評価 部門
つや有り合成樹脂エマルションペイント刷毛塗り仕上げ
下地作業 パテ平滑仕上げ
木目調仕上げ
防水形外装薄塗材 E（単層弾性）ローラー塗り仕上げ
調色

## 15. 会場・宿舎案内図

開催日：令和元年10月16日～17日

(予定：15日 前日準備・審査委員会、16日 開会式、17日 表彰式)

会場：西日本総合展示場 新館 A展示場

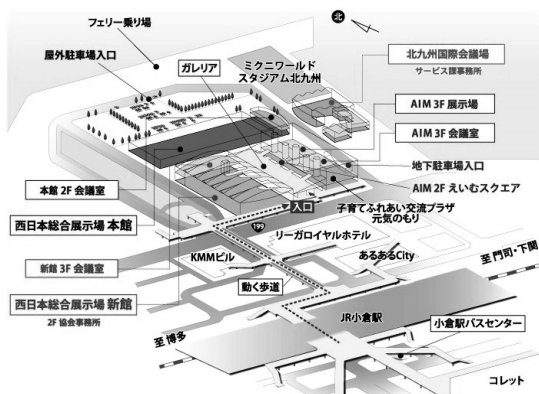


所在地  
〒802-0001  
福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目8-1  
TEL 093-541-5931



《会場へのアクセス》

J R小倉駅から徒歩5分



＊宿舎

小倉ベイホテル第一 〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-17-31 TEL：093-551-8282

《交通アクセス》

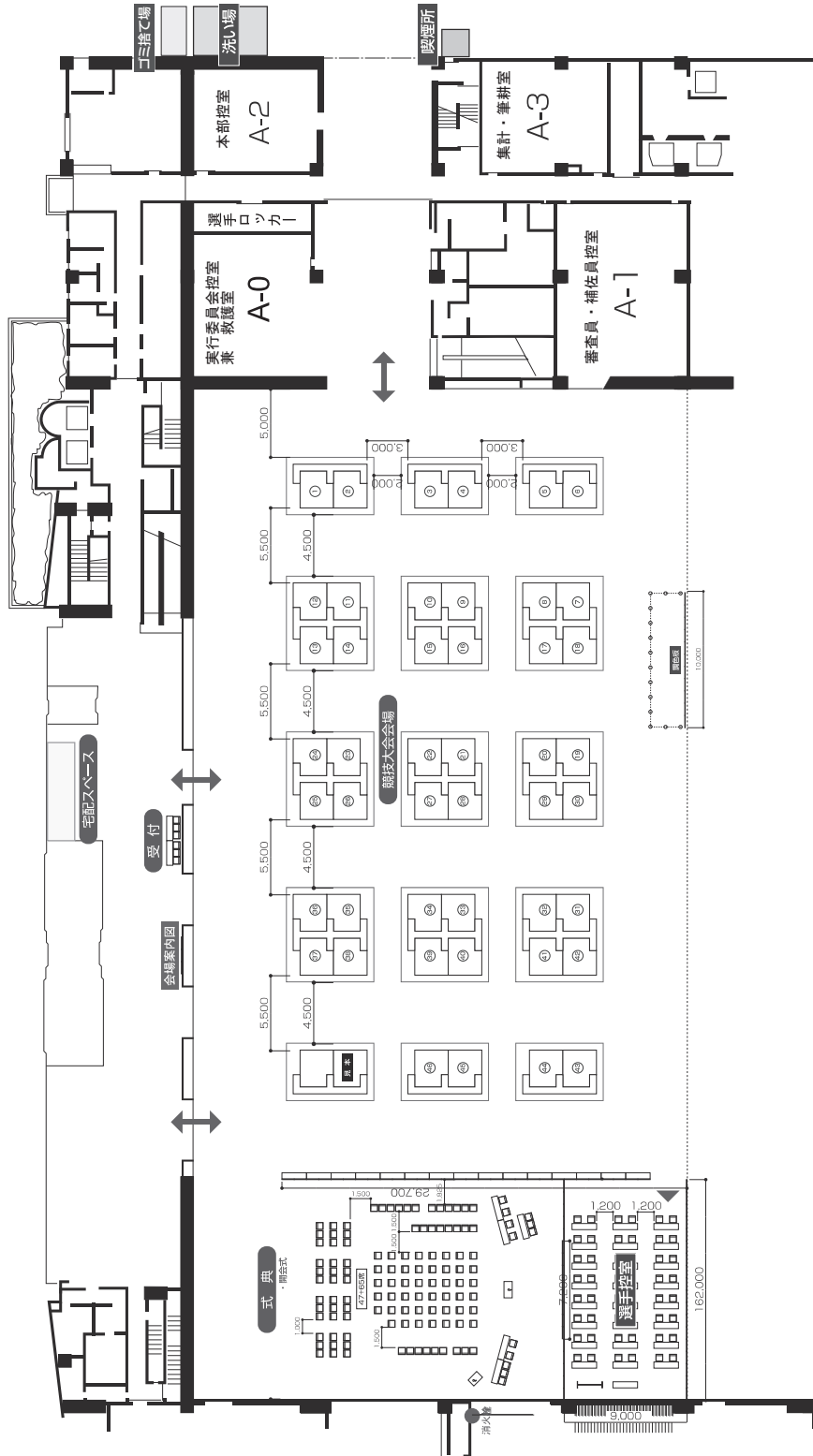
J R小倉駅から徒歩7分

《宿舎案内図》



# 16. 競技会場平面図

〈西日本総合展示場 新館 A展示場〉



## 17. 出場選手

ブロック	選手氏名	よみがな	支 部	所 属 事 業 所
北海道	石 山 泰 史	いしやま たいし	北海道	(有)スギソウ
	萩 原 幸 平	おぎはら こうへい	北海道	池田工業(株)
3名	島 田 竜 揮	しまだ りゅうき	北海道	(株)マツヤ塗装工業
東北	大 高 由 幸	おおたか ゆうこう	秋田	能代塗装
	藤 谷 貴 之	ふじや たかゆき	秋田	(株)フジベン
	伊 藤 日出人	いとう ひでと	山形	(有)ツチヤ塗装
	情 野 巧 己	せいの たくみ	山形	酒井塗装所
5名	木 村 八州男	きむら やすお	山形	(株)ナカムラ
関東	椎 名 純 一	しいな じゅんいち	茨城	(株)富士塗装店
	窪 田 伸 也	くぼた しんや	群馬	(株)木暮塗装
	中 嶋 薫	なかじま かおる	群馬	中嶋塗装工事(株)
	内 田 和 宏	うちだ かずひろ	埼玉	(株)アートテック
	加賀美 哲 也	かがみ てつや	山梨	(有)加賀美塗装店
6名	鷹 取 一 樹	たかとり かずき	山梨	(株)井上塗装
東京・神奈川	牧 垣 隆	まきがき たかし	東京	佐藤興業(株)
	橋 口 俊 行	はしぐち としゆき	東京	佐藤興業(株)
	恩 田 大 資	おんだ だいすけ	東京	佐藤興業(株)
	高 橋 将 太	たかはし しょうた	東京	(株)石合塗装店
	有 馬 甲 一郎	ありま こういちろう	神奈川	(株)TO-JIN
6名	山 本 良 弘	やまもと よしひろ	神奈川	(株)TO-JIN
北陸	前 壽 志	まえ ひさし	石川	(株)若宮塗装工業所
	小 林 正 和	こばやし まさかず	石川	(株)祖泉塗工店
	村 田 翔	むらた しょう	福井	(株)赤池興業
4名	山 本 秀 人	やまもと ひでと	福井	(株)山崎塗装店
中部	池 谷 秀 樹	いけや ひでき	静岡	(株)アヅマ
	榊 山 剛	さかきやま つよし	愛知	葵塗装(株)
	佐 橋 亮 祐	さはし りょうすけ	愛知	(株)TOM創屋
	清 生 和 彦	きよせ かずひこ	岐阜	宇野塗装(株)
5名	山 本 修 二	やまもと しゅうじ	三重	(株)庄栄
近畿	河 津 鉄 也	かわづ てつや	京都	河津塗装店
	吉 岡 大 輔	よしおか だいすけ	大阪	(株)杉本建装工業
	玉 田 和 磨	たまだ かずま	大阪	(株)石渡康三郎塗装店

	隈 園 進	くまぞの すすむ	奈良	林塗装(株)
5名	栗 原 貴 宏	くりはら たかひろ	和歌山	栗原塗装
中国	内 藤 総太朗	ないとう そうたろう	島根	(有)石西塗装店
	武 鐘 勝 也	たけやり かつや	岡山	(株)吉原塗装店
3名	上 浦 秀 彦	うえうら ひでひこ	広島	(株)ゼンヤ
四国	大 河 道 春	おおかわ みちはる	愛媛	(株)ニコー
2名	橋 本 雅 臣	はしもと まさおみ	高知	(株)和泉塗装
九州	横 川 宏 晃	よこがわ ひろあき	福岡	(有)友栄
	辰 田 英 正	たつだ ひでまさ	福岡	(有)友栄
	木 寺 俊 文	きでら としふみ	長崎	(株)デバタ
	貝 瀬 哲	かいせ さとる	熊本	(株)西山塗装
	山 岡 一 裕	やまおか かずひろ	熊本	(有)光塗装店
	國 生 力 也	こくしょう りきや	鹿児島	(株)市坪建装
7名	知 花 守	ちばな まもる	沖縄	(有)沖塗工業
計	46名			

## 18. 出場選手の心得

全国建築塗装技能競技大会に参加する出場選手の基本的な心得をつぎの通り定める。

技能競技大会の期間中、競技会場内、宿舎およびこれらに付随する諸施設内にあつては、団体の秩序と友愛をモットーとし、互いに協力し合つて、技能の日本一を選出する大会にふさわしい環境を作るように心がけること。

いやしくも名誉ある大会の気風を乱し、選手の本分に反しないよう服装、言葉づかいなどには十分留意し、かつ品位を保ち、誇りある選手として、自覚ある行動をとるよう心がけること。

また各ブロックの代表として一般職人の模範でもある自覚をもって大会に臨むこと。

大会の採点に関する事項（本大会には審査基準が有り、減点事項が定められています）については、実施要項の通り作業ができていゝのはもちろんのこと（できていない場合は減点）作業態度等についてもふさわしい態度で臨むこと（ふさわしくないとと思われる者は減点対象となります）。

### ① 作業態度

#### 【作業中の態度】

作業中の態度姿勢は作業にふさわしいか。

（あぐら、地ベタ座り、尻つきなどはいけません）

各作業にふさわしい姿勢で作業しているか。

（コテ作業、コテ板の持ち方、下部の作業は中腰になっているか。ハケ塗り作業

サゲカン、バケツの持ち方。ひじが伸びているものは良くないなど。）

#### 【服装】

腕まくり、裾まくりはいけません。帽子の正しい着用。

（帽子のつばが課題にあたる、作業時のみ後ろかぶり可）

ボタン、チャックの開けすぎ、靴は作業に適しているか など

#### 【安全作業】

ペーパー掛け作業時、マスクを着用しているか。

他人にケガをさせた者は失格。

自身がケガをした者は減点。

### ② 違反行為

- ・不正道具の使用

- ・材料の譲り受け（譲った者、譲られた者 両方）
- ・道具の貸し借り（貸した者、借りた者 両方）
- ・提出用の色見本に直接色試ししている者
- ・養生不可の部分に養生している者
- ・他の選手のスペースや通路に道具をはみ出して置いている。
- ・危険と思われる行為をしている者（※注意をして減点）
- ・その他違反と思われる行為

### ③ 整理整頓

- ・作業中、作業スペースが作業しやすいよう整理されているか。
  - ・材料置場が機能的に整理されているか。
  - ・ペーパー掛け作業中、ほこりが塗料に混入しない工夫をしているか。
  - ・調色中、材料の転倒、こぼれに注意をしているか。
  - ・調色中、塗料の乾燥皮張りに工夫をしているか  
（ぬれウエス、マスキングテープを使ってかぶせているなど）。
  - ・道具類の後始末、コテ板、コテなどきれいにしているか。
  - ・ゴミは小さくまとめているか。
- ※休憩中の整理整頓を重視する。

### ④ 試し塗り

- ローラーもネタを十分なじませているか。
- 仕上がり具合を確認できる塗り方をしているか。

### ⑤ 終了時間チェック

- 選手の「終わりました」の合図を受けて終了時間とする（片付けを含め）。

### ⑥ 水の支給について

- 選手1人当たり2ℓの水（作業用）を支給する。

### ⑦ 作業中の手つきや動きについて

- I 極めて高度な技能で卓越していると判断されるもの（欠点理由の無い優れたもの）
- II 通常の技能より優れていると判断されるもの
- III 通常の技能を示すと判断されるもの
- IV 通常の技能よりやや劣ると判断されるもの

## V 劣ると判断されたもの

以上の5段階にて評価します。

全ての作業において無駄のない動き、スピード感、熟練度などが見てとれるように作業を行って下さい。

### <競技大会会場>

1. 集合、競技開始、休憩など、競技中の進行時間を厳守し特別の理由のない遅刻は絶対にしないこと。
2. 大会会場をはじめとし、施設、備品その他の公共物を破損しないもしくは紛失しないこと。
3. 会場へ集合前、終了後または休憩時間中、所定の場所以外への進入、立入りをしないこと。みだりに徘徊することも禁止する。
4. 公共物を大切に扱い、所持品の整頓に心がけること。
5. 雨具を用意してくること。
6. 期間中は、実行委員、審査員など主催者の指示に従うこと。

### <宿 舎>

1. 暴飲暴食をつつしみ、十分に休養、睡眠をとること。
2. 夜間は必要以上に大声、雑音を避け、他人の妨げとなる行為をつつしむこと。
3. 宿舎内の施設を大切にすることはもちろん、常に整理・整頓・美化につとめること。
4. 煙草は指定された場所で喫煙し、火災の予防にも心がけること。
5. 非常口、避難用具を確認し、緊急の場合の心構えを訓練しておくこと。
6. 不明な点があれば、遠慮なく実行委員まで申し出ること。

※なお、宿舎において目に余る行為があった場合は出場資格を失うこともあるので、十分注意すること。

第 26 回全国建築塗装技能競技大会実施要項  
平成 30 年 12 月 12 日第 1 版（ブロック大会版）  
令和 元年 8 月 7 日第 2 版（全国大会版）

編 集 一般社団法人 日本塗装工業会 技能委員会

発 行 一般社団法人 日本塗装工業会